

社会科協議会記録（7.5）

1 研究の視点

- ICTと思考ツールを効果的に組み合わせて追究活動を行ったことは、主体的な学びを実現する上で有効であったか。

2 自評

- 附属中に赴任して感じていること
 - ・教科書から答えを探す学習活動に終始してしまっている。
 - ・知識の更新や深まりが見られない。生徒の主体的な学びの実現が難しい。
 - ・ジグソーなどを取り入れても、分担したことを再度まとめるだけで、実質個人で調べ学習をしていることと変わらない。
 - ・まとめの授業で学習内容を振り返る際に、ノートを活用する生徒が皆無である。
- 今年度の4月から行っている授業改善
 - ・単元を大きく「習得」と「活用」に分けて、生徒自身が学習状況の把握を行いながら、一枚式ワークシートを活用することで、獲得した知識を活用できるよう工夫している。それによって生徒の主体的な学びを保障したいと考えている。
 - ・単元を貫く問いについては、社会的事象と意図的に出会わせることで、追究にふさわしい課題の設定ができるよう工夫している。
 - ・「習得」と「活用」の往還のなかで、協働的な学びを意図的に取り入れている。
- 今回の授業でやりたかったこと
 - ・習得と活用の学習プロセスを効果的に生み出すためにICTの活用を試みた。学習前の自分の考えをしっかりと持たせた上で、単元を貫く問いを解決するための手段として、複数の思考ツールを用いて思考を可視化させることにした。そして、単元全体を四つの視点に分類させて、導入段階で大まかに整理・分析することで、今後自分の予想がどの程度正しかったのかを主体的に追究していくきっかけになればと考えた。
 - ・短時間に効率よく単元全体を見渡すことができたのは良かったが、知識・技能の「習得」と「活用」をより効果的に往還していたかどうかは疑問が残る。

3 質疑応答

- 生徒主体の学習スタイルについて、他の単元での実践は何かないか。

→3年生では、第一次世界大戦後から第二次世界大戦までの学習について、問いの作成から学習方法や追究の仕方まで、生徒自身が8時間でまとめるようにした。自分が調べた分野以外は苦手と感じる生徒や、ICTや協働的な学びを導入している生徒、社会的事象の影響をマトリックスでまとめたりなど、班内で軌道修正しながら学びを進めていた。
- シンキングツールを使用して、研究の視点や主体的な学びを絞ることは非常に効果的であった。共有ノートは効果的なツールであり、生徒たちの話し合いを促進する上で役立った。色分けされたカードもわかりやすかった。最後の発表では、生徒たちがインプットしたことをアウトプットすることも考慮すべきではないだろうか。

→各教科でもタブレットの活用頻度が多いため、ICTのスキルは高い。アウトプットすることで知識が構造化・概念化されていく側面もあるため、時間を確保して行いたい。
- 四つの視点に絞った意図は何か。

→これまでの歴史学習で、時代の特色を追究する際に活用していたため。また、今回のように視点を提示するのではなく、生徒が気付いたり生徒なりの視点を活用することもエージェンシーを発揮する上では大切だと思う。思うようにならないことから新たな発見をさせることも大切だと思う。将来的には生徒がさらに主体性を発揮できる授業を行いたい。単元の導入ということもあり、主権者意識やよりよい社会の志向など、社会科に求められている深い学びが得られなかった。単元の学習を終えて何を身に付け、何ができるようになったのか、しっかり振り返りをさせたい。